

地域の空間と営みを結ぶ ～回遊性の創発による繁華街の活性化～

宇都宮大学大学院 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 遠藤康一研究室

永田大昂、石井蒼士、井上雄晴、千葉奈央、代永あかり、Sitna Chanzu

宇都宮大学 地域デザイン科学科 社会基盤デザイン学科 大森宣暉研究室

加賀谷瑠生、良知蒼大

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画





戦後～高度経済成長期・バブル景気には宇都宮市随一の繁華街として発展

図 昭和 49 年頃の泉町通り（出典：泉町百年史）

1. 背景・目的

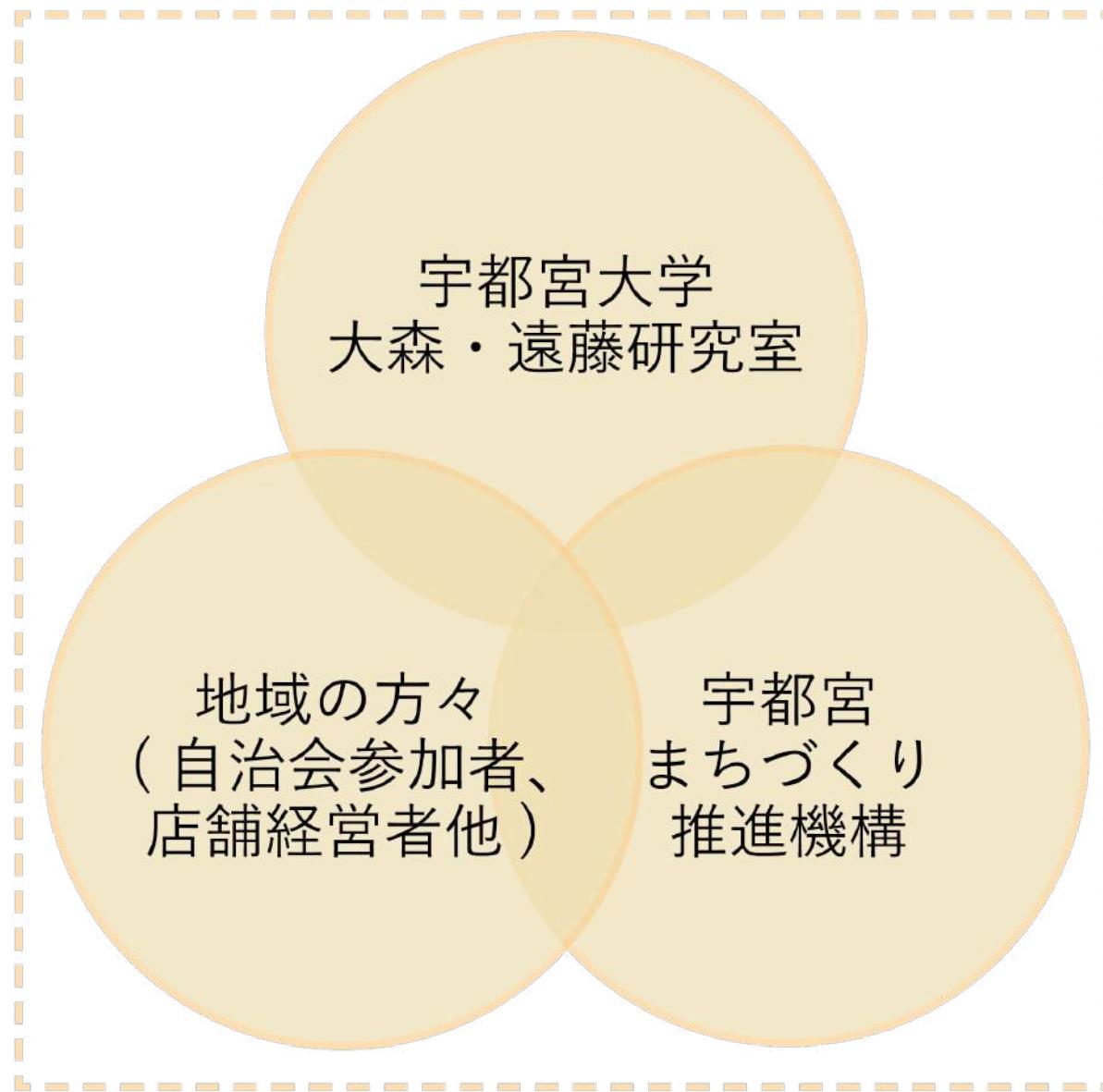
2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



泉町活性化プロジェクト



泉町・本町の活性化を目的として活動

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



会議の様子①



会議の様子②

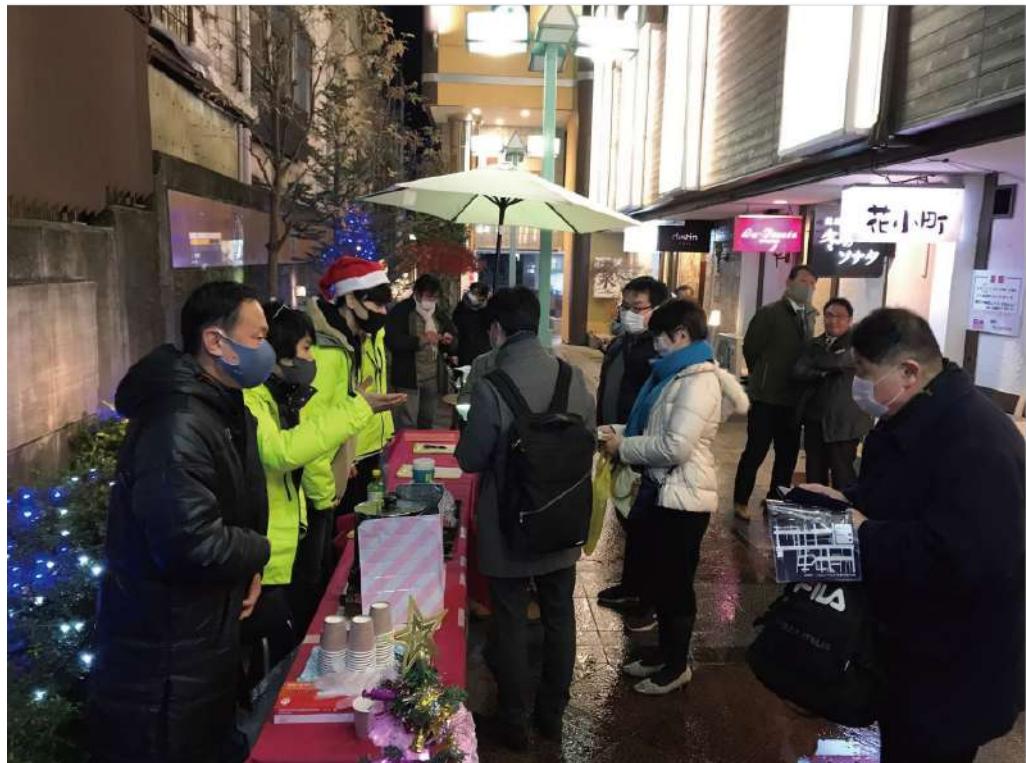
宇都宮まちづくり推進機構主催の検討会の実施

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



2020年：夜のまち歩きスタンプラリーの様子



2022年：社会実験（ビアガーデン＆テントサウナ）の様子

地域の方々と意見交換を重ねながら様々な取り組みを行ってきた

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



路地空間



店舗へのアプローチとなる通路

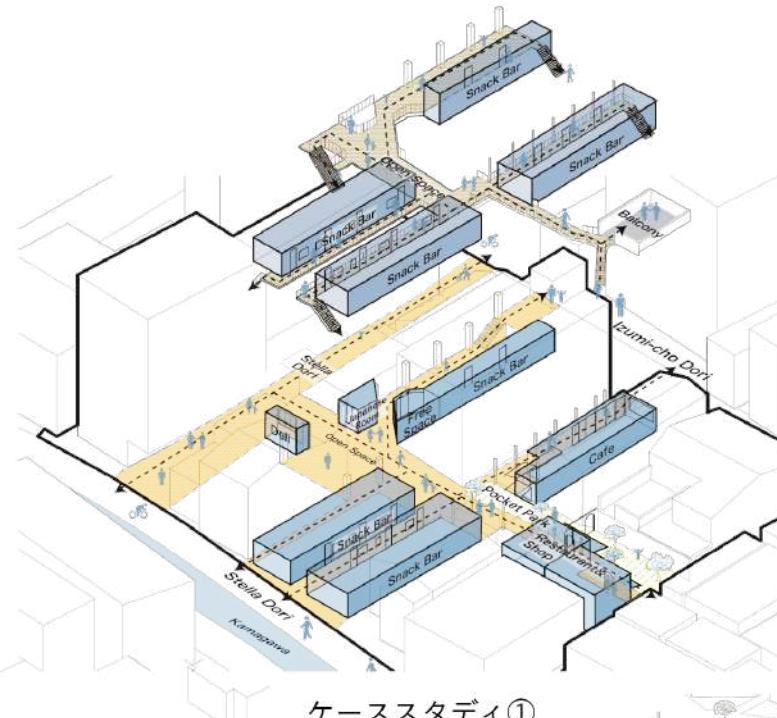
町内にみられる線状の空間（＝動線空間）が不活性であることに着目

1. 背景・目的

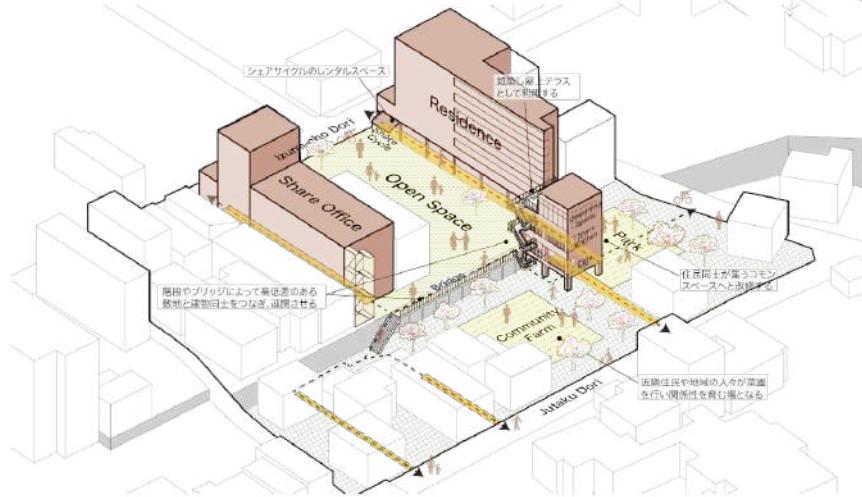
2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

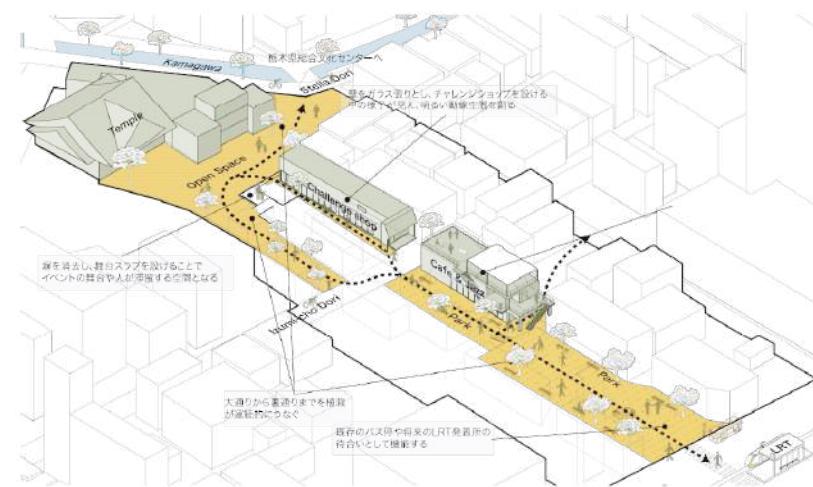
4. 今後の計画



ケーススタディ①



ケーススタディ②



ケーススタディ③

多様な都市活動が展開する空間として再編を行うケーススタディを提案
(2023年 大学生によるまちづくり提案)

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

1.活性化の検討

空間的アプローチ



空間リサーチ（動線空間）
地域内のコミュニティリサーチ（営みと場所の関係）



まちの活性化に向けた将来像モデルの作成及び提案

バリアの発見とバリアフリー化

手法①

移動制約者と専門家とともに対象地域を歩き、現地でバリアの特定を行なう

手法②

ワークショップを実施し、歩いた感想やバリアの改善点などについて意見交換をする

手法③

バリアフリーマップなどを作成し、宇都宮市の繁華街におけるバリアを可視化する



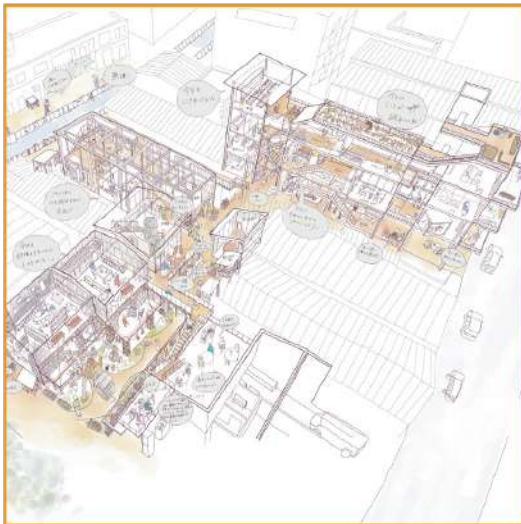
泉町の路上環境におけるバリアを発見し評価
→フィールドワーク調査
(まち歩きワークショップ)を実施

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画



泉町・本町におけるコモンズモデルの作成



宇都宮まちづくり推進協議会との会議



ミニビアガーデン時の意見交換の実施

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			イベント開催 意見交換会				地域と学生の会議 (とりまとめ)
(地域団体の役割)	エリアリサーチモデル提案作成			パリアフリー調査、分析 (公共交通環境調査～データベース化)	ブックレット等の作成			地域と学生の会議 (とりまとめ)
			地域と学生の会議 (計画立案)	イベント実施補助				

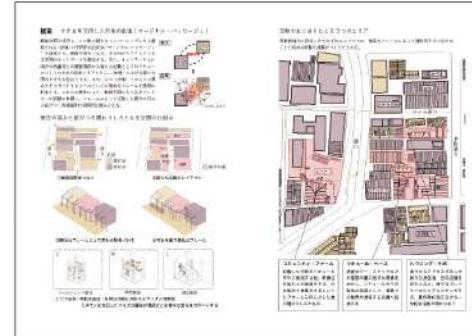
地域内のコモンズを再構築することを通じて繁華街活性化の実現に向けた提案の作成、意見交換など、繁華街を再興する方向性を模索してきた

2. 提案を用いた議論の活性化

冊子のデザイン及び作成



助成金の一部を用いた模型写真の撮影（協力：乾写真事務所）



空間やコミュニティ課題、今後の展望を掲載した
町の将来像を考える冊子



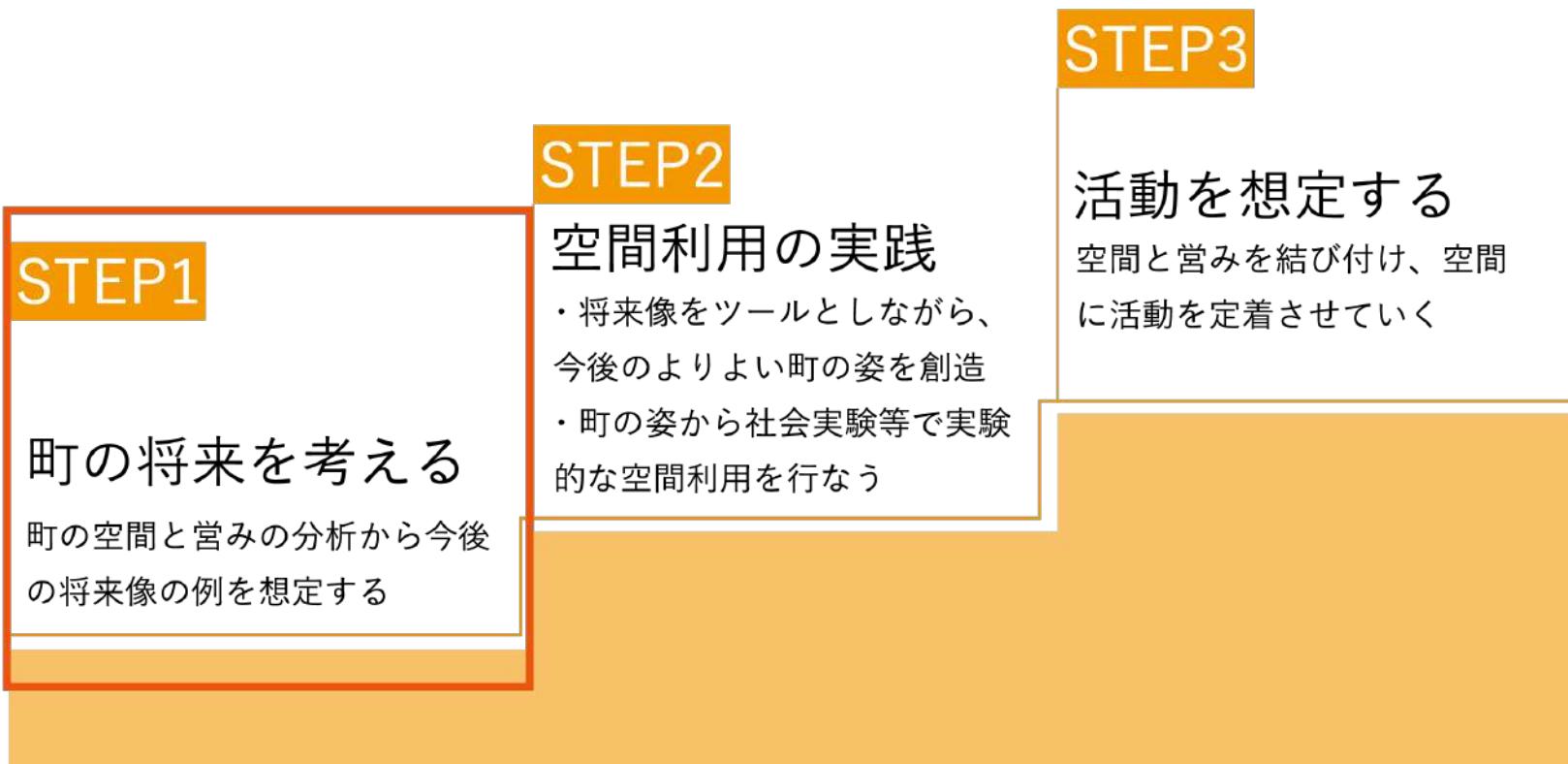
表紙デザインの検討や歴史や暮らしを踏まえた
泉町・本町 MAP の作成



様々な人を巻き込み活動を広げながら
今後のアクションの具体化を進めていく

【冊子活用が想定される場面】

- ・スナック、BAR など町内の店舗への配布を行い、活動の周知を広げる
- ・地域の方との今後の活性化のための会議に用いる
- ・町内外のイベント時に配布し、町外の方にも興味を持ってもらう



前年度は町の分析と将来像の構想から泉町・本町の「これまで」と「これから」について考えた

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

STEP1**町の将来を考える**

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する

STEP2**空間利用の実践**

- ・将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

STEP3**活動を想定する**

空間と営みを結び付け、空間に活動を定着させていく

将来像をツールとして、社会実験などで実験的な空間利用を行なう

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

令和7年度

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			動線空間活用実験 (イベント)開催				地域と学生の会議 (とりまとめ)	
地域団体の役割		動線空間活用検討～社会実験準備		バリア実態調査・解消施策検討				地域と学生の会議 (とりまとめ)	

1.活動報告

県庁ナイトマルシェ
にて展示及び説明

2.活性化の検討

営業店舗実態調査
バリアフリー調査

3.社会実験兼イベントの検討

社会実験、イベントの内容検討
ボトルライトの作成

1. 県庁ナイトマルシェにて展示及び説明 (2025/05/30)



ベースを設けていただき、模型やプレゼンボードを展示
冊子を用いて説明

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、今後によりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行なう

『動線空間』…通りに面する路地や建物を貫通する線状の空間



▷かまがわプロムナード付近の路地



▷ステラ通り



▷正行寺



回遊性をテーマに町に点在する動線空間を活用

3-1. 社会実験兼イベントの検討

4.今年度の取り組み

①イベント企画 日時：2025.11.07（金）17:00~20:00

【目的】

スタンプラリーやフォトコンテストの企画を通して、泉町の動線空間を実践的に活用し、新たな回遊の体験の創出を目指す。また、泉町を歩く体験を通して参加者各々が町の魅力を発見し、ピアガーデン等のまちの活動に触れることで、暖かいものを感じての将来像を共有する。

【内容】（検討事項）

①フォトイベント

泉町内を回遊しながら印象に残った場所・魅力的に感じる空間の写真を撮ってもらい、それらを収集する。また、参加者にもインスタにハッシュタグ付けて投稿してもらう。

例：おでこ入の路地などおしゃれを3つ撮影し、Instagramにハッシュタグ付きで投稿してもらった人にビールやソフトドリンク一杯無料など

②スタンプラリー

スタート地点となるブースは複数設置し、最初に泉町に関するクイズが書かれたスタンプシートを配布。

クイズを解くことで分かる泉町内にあるいくつかのスタンプ地点を見つけていき、シートを完成させ、景品と交換。

例：スタンプラリーができるアプリと連携してミッション（2つのエリアに設置してあるスタンプを1枚）などを達成した人にビールやソフトドリンク一杯無料など

②社会実験

【調査目的】

泉町には、新しい裏路地や、複数の店舗が入っているような建物が集まっている場所。釜川が通る道沿いなど、多様な空間がみられる。

そこで、今回の調査では、特定エリアの通り抜けと滞留の有無を調べることによって、空間活用の実践的な展開とエリナ内の回遊のあり方を検討する。

また、泉町を歩く人々がどのような空間を魅力的に感じるかについて、イベントの企画と連携して調査することで、泉町内の暖かい形態につながる空間の創出を目指す。

【調査内容】

①イメージ調査

イベントで泉町内を回遊しながら印象に残った場所の写真を撮ってもらい、それらを収集することで、人々が通りを歩く中で経験する場所に対するイメージを調査する。

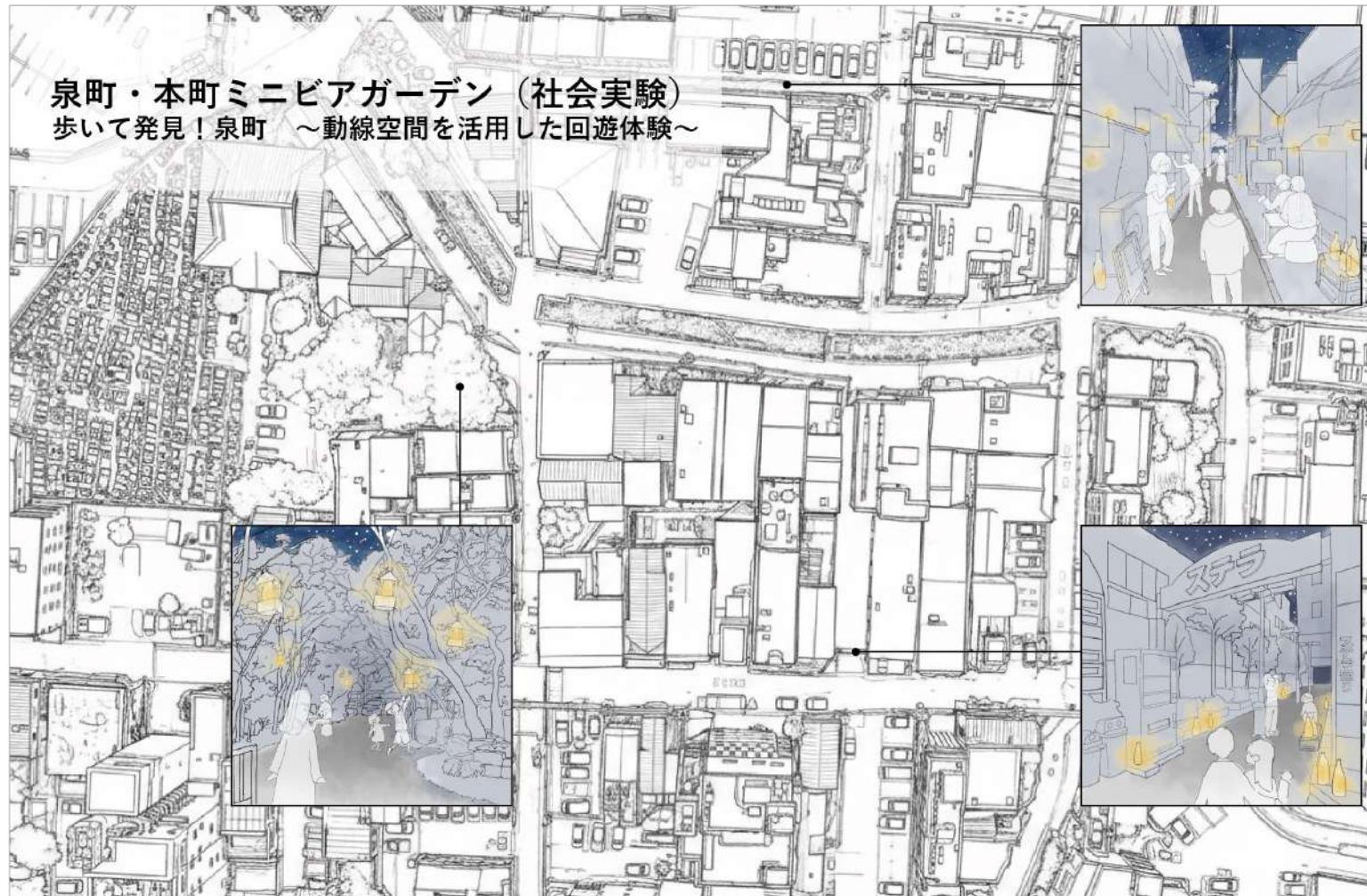
②アクティビティ調査（検討中）

各ポイント（A-C）にて、通り内部での人々の活動を記録することで、滞留・回遊の様子を調査する。また、通りの出入口にて人々の山入りの方向・時間も記録することで、通り抜けの有無や滞留時間を観察する。

企画書やチラシを作成

企画立案会議（まちづくり推進機構、自治会との会合）、イベント来訪者への説明など

3-1. 社会実験兼イベントの検討



イベントの内容をビジュアル化した絵や当日の地図にもなる絵地図を作成

3-1. 社会実験兼イベントの検討

1. 背景・目的



動線空間の例

泉町・本町エリアは、かつて宇都宮の夜の繁華街の中心をなした場所であり、暮らしこそ生業が混在した都市の様相が今まで引き継がれている。しかし近年は、都市構造の変化、来街者の年齢構成の変動、高齢化と事業継承の停滞による店舗数の減少等により、まちの活動の単調化と縮小がみられるようになった。そのような中、宇都宮大学遠藤研究室では、繁華街に多様な都市活動を生み出す余地を見出し、実践へとつなげる活動を昨年度から行っている。

今年度は、空間活用を実践的に展開するため、泉町・本町の方々と意見交換を行うとともに、動線空間（左図）に着目した空間活用実験を実施することを通じて、泉町・本町の都市空間と人々の活動が交差することにより創発される、地域の回遊性のあり方を検討・共有することを目的とする。具体的な取り組みとしては、動線空間活用検討に向けたタウンミーティングの開催、動線空間を活用した社会実験の実施を検討している。

2.これまでの活動

STEP1 (これまで)

まちの将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する。

STEP2 (現在)

空間利用の実践

将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造。町の姿から社会実験等などで、実験的な空間利用を行う。

STEP3 (これから)

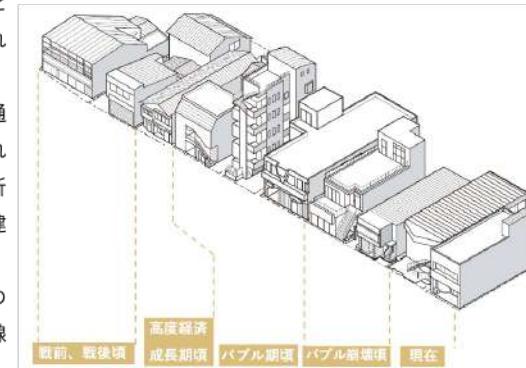
活動を想定する

空間と営みを結びつけ、空間に活動を定着させていく。

これまで、左の3つのSTEPに基づき、まちの分析と将来像の構想から、泉町・本町の「これまで」と「これから」について考えた。

泉町には、表通りと裏通りに面して路地や建物を貫通するような線状の道空間が多くみられる。私たちはそれらを「動線空間」と名付け、構成学的観点から研究分析を行ってきた。エリアサーチや空間活用実験を通じ、建築学会コンペでの発表を行った。

また、泉町ステラ通りでのビアガーデンや県庁前でのナイトマルシェでの地域の人々へ説明を行うなど、動線空間の活用についての意見交換を行ってきた。



ビアガーデン

建築学会コンペでの模型
photo by 乾剛

ナイトマルシェ

泉町活性化プロジェクトを知らない人でもわかるように
背景や目的、これまでの活動を掲載

3-1. 社会実験兼イベントの検討

4. 今年度の取り組み

①イベント企画 日時：2025.11.07（金）17:00～20:00

【目的】

スタンプラリーやフォトコンテストの企画を通して、泉町の動線空間を実践的に活用し、新たな回遊の体験の創出を目指す。また、泉町を歩く体験を通して参加者各々が町の魅力を発見し、ビアガーデン等のまちの活動に触れることで、賑わいのある繁華街としての将来像を共有する。

【内容】

①フォトイイベント

泉町内を回遊しながら印象に残った場所・魅力的に感じる空間の写真を撮ってもらい、それらを収集する。また、参加者にもインスタにハッシュタグ付きで投稿してもらう。

例：お気に入りの路地などの写真を3つ撮影し、Instagramにハッシュタグ付きで投稿してもらった人にビールやソフトドリンク一杯無料など

②スタンプラリー（要検討）

スタート地点となるブースは複数設置し、最初に泉町に関するクイズが書かれたスタンプシートを配布。

クイズを解くことで分かる泉町内にあるいくつかのスタンプ地点を見つけていき、シートを完成させ、景品と交換。

例：スタンプラリーができるアプリと連携してミッション（3つのエリアに設置してあるスタンプを回収）などを達成した人にビールやソフトドリンク一杯無料など

目的

動線空間を実践的に活用し、新たな回遊体験の創出を目指す

手法

フォトイイベントを通して泉町内を回遊し、魅力的な場などを発見する

3-1. 社会実験兼イベントの検討

②社会実験

【調査目的】

泉町には、細い裏路地や、複数の店舗が入っているような建物が集まっている場所、釜川が通る道沿いなど、多様な空間がみられる。

そこで、今回の調査では、特定エリアの通り抜けと滞留の有無を調べることによって、空間活用の実践的な展開とエリア内の回遊性のあり方を検討する。

また、泉町を歩く人々がどのような空間を魅力的に感じるかについて、イベントの企画と連携して調査することで、泉町内の賑わい形成につながる空間の発見を目指す。

【調査内容】

①イメージ調査

イベントで泉町内を回遊しながら印象に残った場所の写真を撮ってもらい、それらを収集することで、人々が通りを歩く中で経験する場所に対するイメージを調査する。

②アクティビティ調査（要検討）

各ポイント（A～C）にて、通り内部での人々の活動を記録することで、滞留・回遊の様子を調査する。また、通りの出入り口にて、人々の出入りの方向・時間を記録することで、通り抜けの有無や滞留時間を調査する。

目的

空間活用の実践的な展開とエリア内の回遊性の在り方を検討

手法

イメージ調査を行い人々の興味や関心、視点などのイメージを捉える

3-1. 社会実験兼イベントの検討

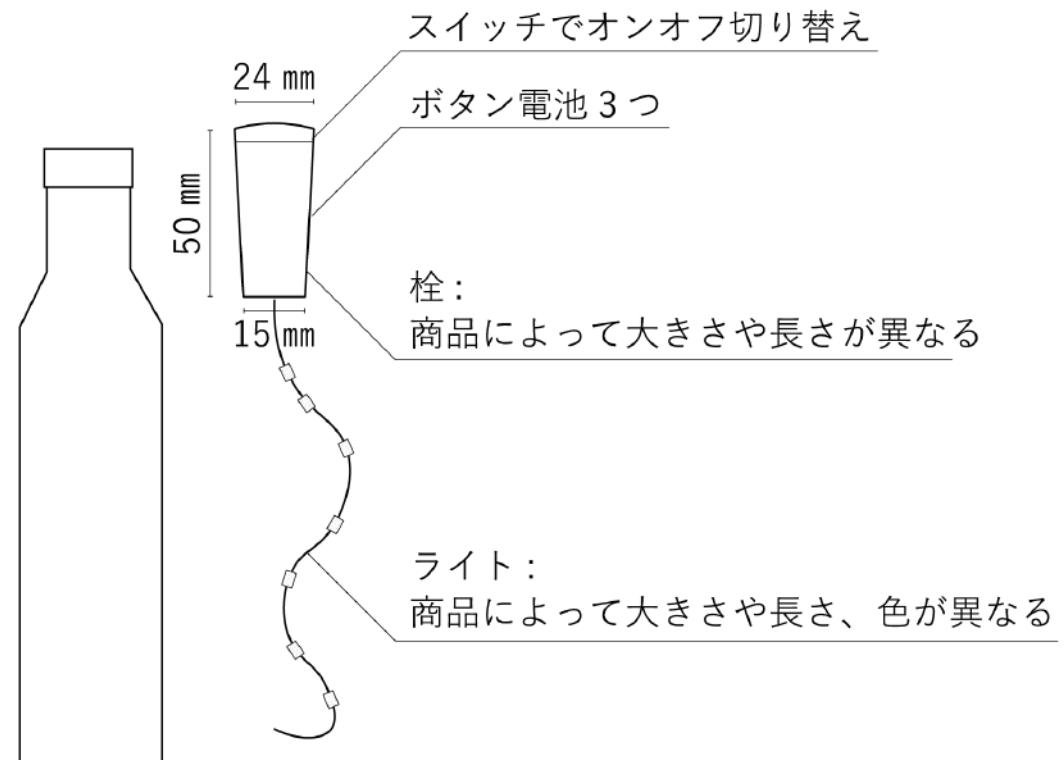


ステラ通りエリア、正行寺エリアをメイン会場として開催

3-2. ボトルライトの検討

【内容】

- ・イベント実施にあたって街灯が無い場所などの空間演出や安全管理のため光を確保
- ・スナックや Bar が特徴的な泉町にちなみ、空き瓶を活用したランプを製作



空き瓶を活用して光源を作成

3-2. ボトルライトの検討



吊り下げ形式



天板及び地面設置形式

イメージ図を作成し、検討会で提案

3-2. ボトルライトの検討



試作品を製作したことで、ライトの色と瓶の色や大きさで
光量や雰囲気が異なることがわかった

3-3 チラシ作成



様々な人を呼び込むためにチラシの作成を行った

令和7年度

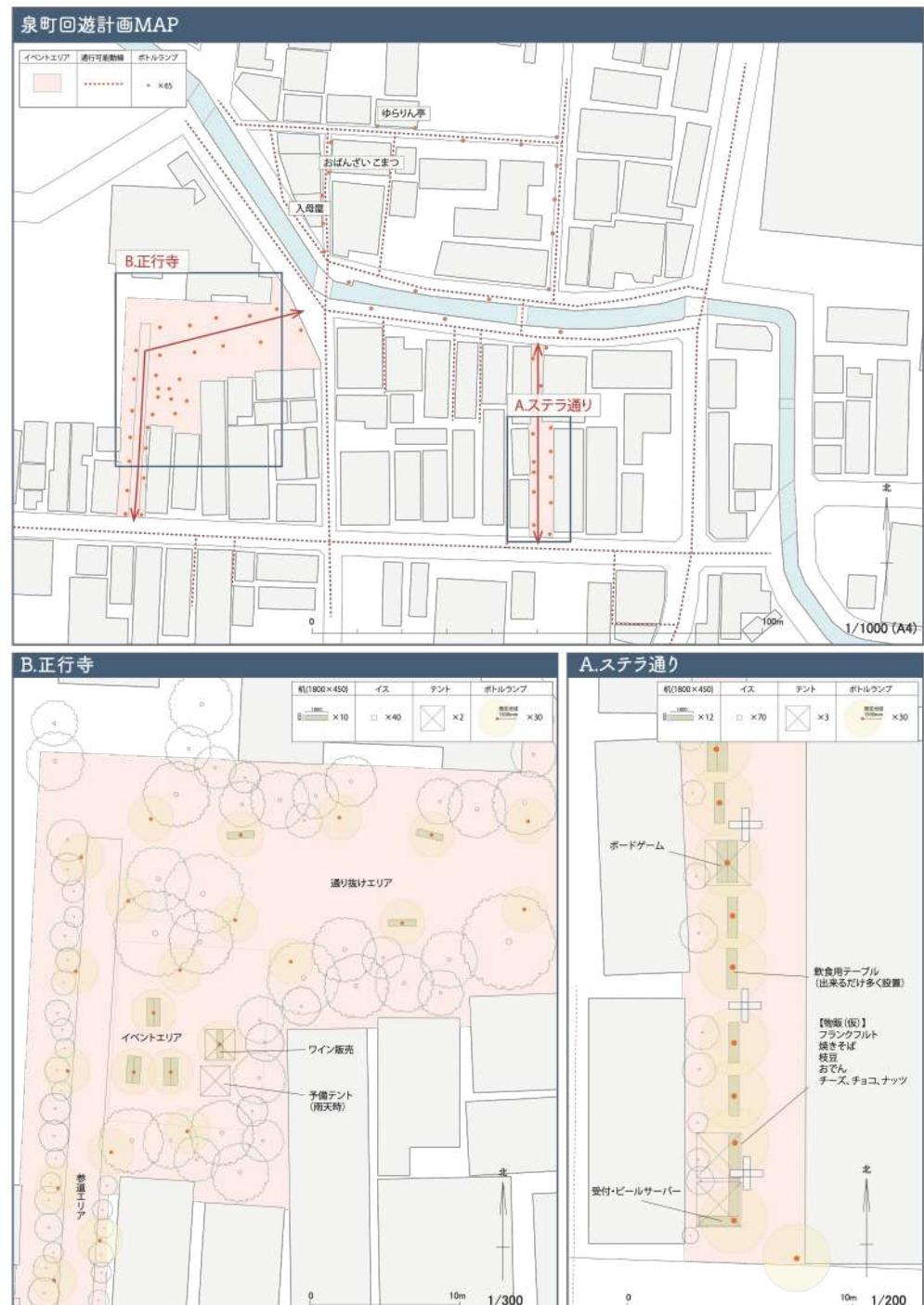
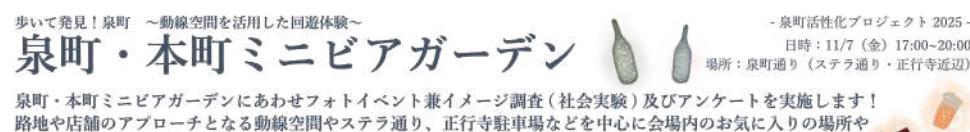
実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)				動線空間活用実験 (イベント)開催			地域と学生の会議 (とりまとめ)	
地域団体の役割		動線空間活用検討～社会実験準備			バリア実態調査・解消施策検討	調査の集計		地域と学生の会議 (とりまとめ)	

1.社会実験兼イベントの開催

ビアガーデン開催
バリアフリー調査、イメージ調査

4-1 アンケートとMAP

泉町やその周辺に関するアンケートと
フォトイベント兼イメージ調査を行った
また、回遊計画MAPを作成した



4-2 ビアガーデン当日の様子



11/7 (金) 17:00～20:00



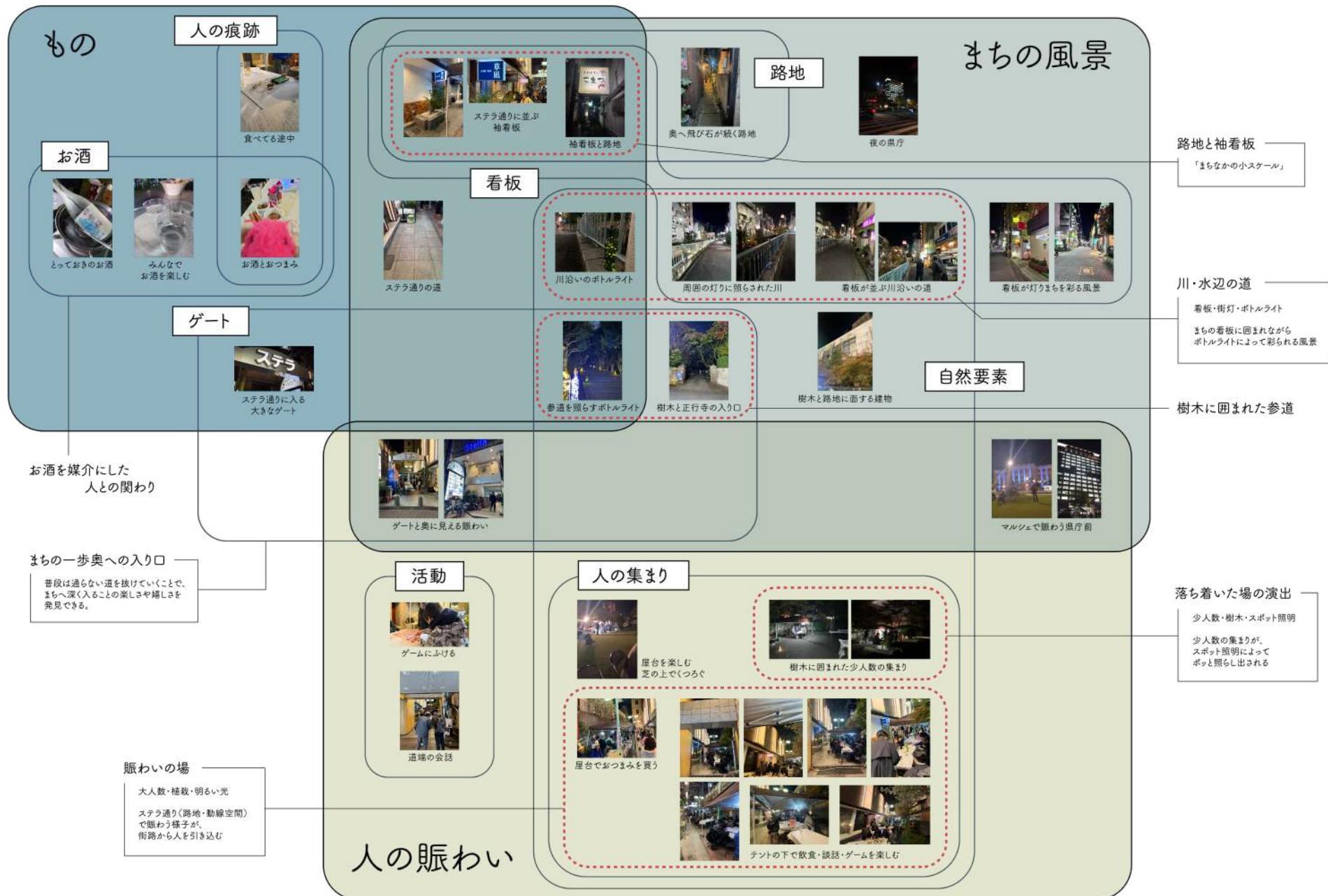
ステラ通りと正行寺の敷地内で開催

4-3 意見交換ツールとして動画を作成



<https://youtu.be/CrC3jLI3lOM?si=xBhQQ-7z-u4R-MWc>

4-4 写真投稿による調査 (イメージ分析)



5-1 バリアフリー調査

実施内容

町歩きバリアフリー調査

車いす利用者への意識調査

照度測定とデータ分析による評価



調査結果をもとに、照度不足の改善、案内サインの設置、防犯対策の強化など、夜間における安全で安心な歩行環境の実現に向けた提案を行う。



バリアフリー調査



照度測定



照度測定（昼）



まち歩き調査

5-2 営業店舗実態調査

泉町・本町にある**166**件の建築物の営業状態を目視により調査をした



【結果】

合計 566カ所

空きテナント 104

民家、駐車場、空き地 47

営業店舗

昼 66 店舗
夜 255 店舗

種別

飲食	47	店舗
接客	206	店舗
廃業	105	店舗
商店	9	店舗
その他	48	店舗

前回調査からの変化

別店舗	133	店舗
空き	43	店舗
新店舗	2	店舗

1. 背景・目的

2. 前年度の活動

3. 今年度の活動

4. 今後の計画

令和7年度

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			動線空間活用実験 (イベント)開催				地域と学生の会議 (とりまとめ)	
地域団体の役割		動線空間活用検討～社会実験準備		バリア実態調査・解消施策検討		調査の集計		地域と学生の会議 (とりまとめ)	

タウンミーティング開催

ビアガーデンの報告(社会実験結果、動画を用いて)
冊子(2025年度に作成したもの)を用いた意見交換

前年度

動線空間やコミュニティ、昼と夜の活動、大通りと泉町通りの関係性など
泉町・本町における、潜在的な場所性を探る、引き出す

STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析
から今後の将来像の例
を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、
今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的
的な空間利用を行う

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結びつけ、
空間に活動を定着させていく

今年度

空間活用のための**社会実験**(ビアガーデン)と地域の人たちと**意見交換**を行い、場所の使い方を共有して、今後の道筋を模索・想定した

地域の回遊性創発につながる場所の使い方、まちのイメージの抽出を行った

STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験的な空間利用を行う

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結びつけ、空間に活動を定着させていく

今後

- ・イベントの分析
 - ・昨年度の冊子を用いたまちの人たちと意見交換
- より具体的に地域内の回遊性や新たな営みを生むプログラムを想定していく

STEP1

町の将来を考える

町の空間と営みの分析
から今後の将来像の例
を想定する

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、
今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等で実験
的な空間利用を行う

STEP3

活動を想定する

空間と営みを結びつけ、
空間に活動を定着させ
ていく